

柏崎刈羽原発再稼働の是非の判断に 県民一人一人がしっかりと意思表示できる機会を！



↑「十分な知識を持ち得ない県民が県民投票で結論を出すのはふさわしくない」として
県民投票条例を否決した県議会への抗議のスタンディング行動（5・11アオーレ前）

**国・県・東電が柏崎刈羽
原発再稼働に前のめり
再稼働許さない!!**

14万3196人の県民の思いが詰まった直接請求を県議会が否決するやいなや、再稼働に向けた動きが急速に強まっています。

花角知事は、首長との対話をブロックごとに開始。公聴会を6月にも始めるとし、県民意識調査にも言及しています。また、内閣府や国土交通省に出向き、原発立地地域の公共事業を財政支援する「特措法」の拡大を要請しています。

県は、被ばく線量のシミュレーションを公表。しかし、福島事故より格段に小さい規模の事故の設定にとどまったもので、実効性が問われます。

内閣府は、再稼働の条件となる「緊急時対応」を取りまとめ、6月初めに住民説明会を開くとしています。

柏崎刈羽原発再稼働を許すかどうかの正念場に差し掛かっています。知恵と力を合わせ声をあげ、再稼働ストップを!!

6号機燃料装荷の取りやめを!

呼びかけに応え、ゼロネットを含めた40以上の団体が賛同して東電に中止を要請しました。（5/20）

県民投票への私の思い

主権者である県民を侮辱する県議会

第一日目の県議会を傍聴しました。

傍聴席は満席、改めて県民の関心の高さに驚くとともに、頼もしく思いました。

市民団体の代表者7人による意見陳述から始まりました。「知事、多様な意見を尊重すると言いつつ、この14万3千人の意見は尊重されないのですか?」「事故が起きれば被害を受けるのは住民。なぜ住民が決めてはいけないのか?」などの発言がありました。

その後、参考人新潟大学教授今本氏の意見陳述、自民党、未来にいがた、リベラル新潟の3人が代表質問をしました。教授も自民党議員も、原発問題は高度な専門知識を必要とするので県民は判断できないと繰り返し言うのに、私は余りにも県民を馬鹿にしていると腹が立つてきました。傍聴席からはエーというどよめきが何度も起きました。

私たちは、福島原発事故の事実から、原発に関わる情報から、学習会での学びから、放射能の恐ろしさを知っています。原発問題は、まさに私たちの生命・生活の問題なのです。主権者である私たちに意思を表す権利があるのです。（中村 節子）

※裏面につづく



6月のアオーレ前宣伝行動は6月11日（水）16時～16時30分 *ぜひご参加を

原発ゼロ長岡市民ネットニュース
第158号 2025年5月26日発行

連絡先 広井洋子 長岡市寿2-5-15
電話・FAX 0258-24-2870
佐藤 090-4925-3707